

## V 放流後の追跡調査

### 1 調査方法

追跡調査は、第1回中間育成を行ない6月11日に放流したものについて実施した。稚ガニの再捕には図6に示した採集具を使用し、中間育成場の周囲210m内で追跡した(図10)。

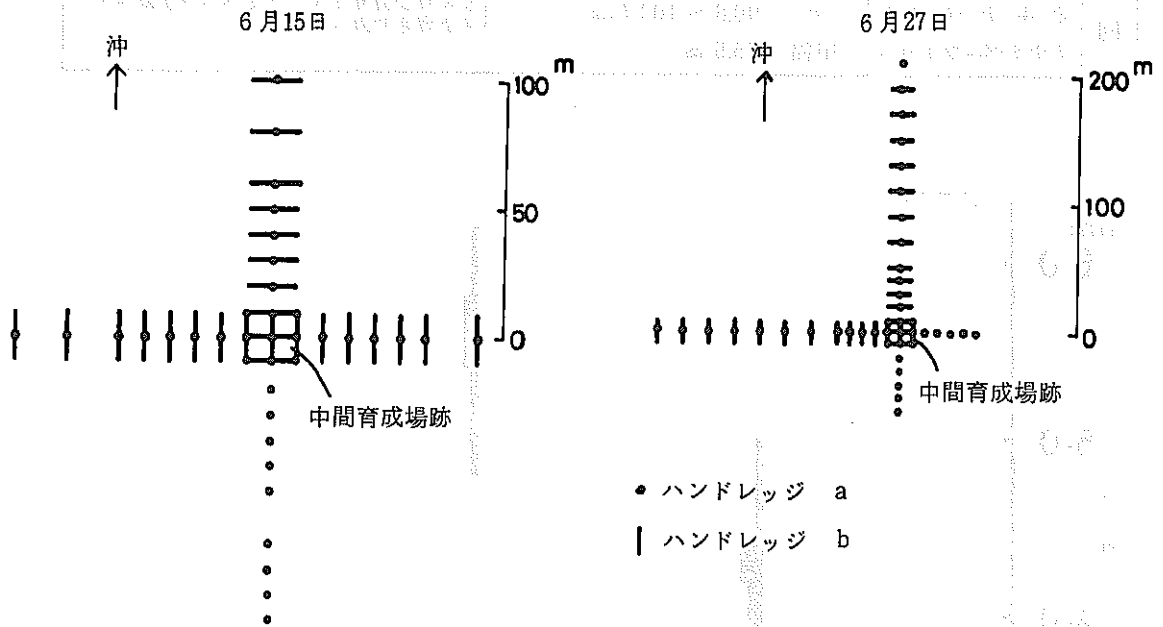


図10 追跡調査実施地点

### 2 放流ガニの移動・成長

放流後4日目の6月15日の調査では、中間育成場から30m離れた地点まで放流ガニが再捕されているが大部分は中間育成場跡で再捕された。稚ガニは分散しているもののまだ中間育成場跡に留まっているものも多かった。

放流16日目の6月27日には、中間育成場跡でわずか再捕されたのみで殆どが分散してしまったと考えられる(図11)。

この間の放流稚ガニの成長をみると、放流時甲幅7~10mmのC<sub>3</sub>~C<sub>4</sub>であったものが4日後の6月15日には甲幅9~14mmのC<sub>4</sub>~C<sub>5</sub>に、そして16日後の6月27日には甲幅12~19mmのC<sub>5</sub>~C<sub>6</sub>になっていた(図8)。

なお放流地点を中心とした分布状況、放流前の周辺の調査で人工種苗と同サイズの稚ガニが出現していないことから考えて、ここで採集した稚ガニは全て放流群とした。また6~7月に中間育成場周